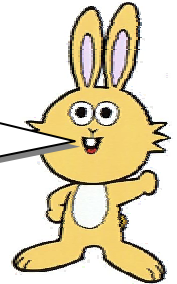


<Vol.101 の記事>

報 告 2009 年年次総会、新理事の紹介！
連載 企業に支えられたスポーツの危機



2009 年度年次総会の報告

20周年にむけネクスト10を描きます！

6月14日(日)クラブハウスにおいて、2009年度の定例年次総会が開催され、30名(うち正会員20名)の参加者のもと、2008年度の事業報告、収支決算報告、2009年度の事業計画と予算について審議しました。

2009年度は、フィットネスプログラム全面更新を受け、マイナス(赤字)収支を予定してことについて、その見通しや補填方法について質問が出されました。

昨年度までの繰越金で補填が可能であること、フィットネスの会員の方に検討期間をもっていただくためにも、拙速にクラスの改廃を決めたくないために、仮に人数が少ないクラスがあっても続けたいことなどの説明がありました。

繰越金の位置付けについての質問もありました。クラブは、年度ごとに収支の変化が大きいため、2006年度のクラブハウスの整備でまとまったお金が必要であったことからわかるように、今後も施設の整備などを望んだ時に、自己資金が必要であること(totoの助成は2/3などが多い)などのために必要としている旨の説明がありました。

この結果、来年度からは施設整備費積立金などの費目をたてて、予算化していくこととなりました。

浦和スポーツクラブは、来年度に設立20周年を迎えます。1991年に欧州型のクラブを目指して設立されましたが、その後、社会的な様々な状況の変化、クラブ会員の拡大などもあったことから、クラブが今後10年間程度で目標とすることなどについて、あらためて検討する時期に来たと思われます。

クラブの会員制度や会費のあり方についても、あわせて見直していくものとします。今後、会員が参加できるワーキンググループなどをつくり、検討を進めていきます。

新役員紹介

1991年のクラブ創設以来19年間の長きにわたり、理事長をお務めいただきクラブを牽引してきてくださった倉持理事長が、体調面のご事情により退任され、名誉顧問に就かれることとなり、新理事長には、戸疇晴彦氏が選任されました。

(再任)	旧	新
戸疇 晴彦	副理事長	理事長
塩野 潔	"	再任 副理事長
萩原 紀男	理事	再任 副理事長
小野崎研郎	副理事長	再任 副理事長
大橋 正樹	理事	再任
清水 恵二	理事	再任
伊澤 浩助	理事	再任
三浦 郁哉	理事	再任
三戸 一嘉	監事	再任
宮原 正弘	監事	再任
(新任)		
柴田 宗宏(サッカー指導者)		理事
梶谷千恵子(テニス指導者)		理事
鈴木 公文(テニス会員)		理事
生田目 基(サッカー会員)		理事
(退任)		
倉持守三郎	理事長	退任 名誉顧問に就任
金子 文明	理事	退任
佐藤 勝利	理事	退任
山田 結美	理事	退任
千装 聡美	理事	退任
中曽根佐和子	理事	退任

ふらっと常盤 親子ヨガクラス新設

ふらっと常盤で親子プログラムが定期クラスとして始まります！ 無料体験(1回)できます！

火曜日 10:20~11:10 親子リラックスYOGA
11:30~12:20 親子エクササイズ

会費 2,500円/月

*体験参加は、事前に事務局にご連絡ください！

ふらっと常盤：048-824-9636

連載 企業スポーツの危機

連載第2回目の今号では、現在の日本のスポーツ環境の危機的状況について紹介します。

企業頼みのトップスポーツ！

北京オリンピックなどで活躍した日本選手の所属先がすぐにわかる方はいますか？

サッカーは、ほとんどの選手がJクラブ所属のプロ選手でした。野球ももちろんプロ選手の集まりでした。では、金メダルをとった女子ソフトボールは？ バレーボールは？ 柔道は？ レスリングは？ 多くの選手が国内の企業の所属です。

多くの企業は、Jリーグやプロ野球のように、競技を商品としているわけではなく、企業イメージの向上や、社員の意識高揚、そして企業の社会的貢献活動などを目的として、アスリートを雇用（もしくは契約）し、活動を支えています。

「宣伝費だからいいんじゃないの」と言われる方もいるかもしれませんが、例えば、女子ソフトボール日本代表の主力を支えたルネステクノロジ高崎・・・皆さん何の会社だかご存知ですか？ 実際には、アスリートを雇用することが、大きな宣伝効果になっていない場合も少なくないのではないのでしょうか。企業文化として支えている側面も少なからずあるものと思います。

相次ぐ廃部・休部！！

しかし、近年の国際間競争と世界的な不況の中、企業の経営環境は著しく悪化し、企業が抱えるスポーツ部活動の廃部のニュースが増えてきています。日本のバブル崩壊の2000年前後にも多くの競技部が廃部しましたが、有効な対策がとれないまま、現在でも同様に現象が繰り返されています。

(株)スポーツデザイン研究所の調査では、ウラスポが設立された1991年から2008年までの間に、324の企業（全国レベルの大会等に登録・参加していた企業）が休部もしくは廃部しているそうです。

アイスホッケーの西武、女子サッカーの田崎ペレール、陸上競技のファイテンやOKI、野球の三菱ふそう、アメリカンフットボールのオンワードなど、昨年度休部・廃部が報道されたチームをインターネットなどで調べると、いずれも良く聞いたことのある、国内でもトップクラスの成績をあげていたチームも少なくないことがわかります。

選手や指導者はトレーニングの場を失い、ともすると生活の糧も失うこととなります。オリンピックや世界大会に出場したような選手でも、あっさりと所属企業が廃部となったことで、選手生活を継続することが困難になった例も少なくありません。このような状況では、選手は、落ち着いてトレーニングにとりかかることができず、成績を伸ばすこともできるわけがありません。

トップリーグの低迷は日本スポーツの危機

アイスホッケーでは、国内だけのチームではリーグ戦を維持できず、韓国、ロシア、中国のチームとともにアジアリーグとして活動せざるをえなくなりました。

一方、バスケットボールでは、プロリーグであるbjリーグを設立し、レベルの高いトップリーグを目指した活動が展開されています。

サッカーではJリーグができ、国内のリーグ戦の活発になりレベルが上がったことが、ワールドカップの参加につながったと言われています。

将来は の選手になりたい！ と子ども達が思える環境があることや、高い指導力を持つコーチがプロとして活躍できるトップレベルの場があることなどが、その種目に多くの人がひきつけられ、競技人口を増やし、競技力を高めていくことにつながります。

プロ化を支える地域スポーツクラブ

では、プロ化をすれば大丈夫なのか？ 人気のない種目でプロ化をしたところで、スポンサーも観客も集まりません。プロ化の前提として、その種目が多くの人の目にふれ、多くの人が楽しむことで、その種目自体の人気を高める必要があります。

これまでよりも、もっともっと多くの人がスポーツを楽しむようになることで、マーケットも広がり、ファンも広がり、多くのスポーツの人気が出て、トップ選手が活躍できる場が広がっていきます。

「別に地域スポーツクラブでなくても、そんなことはできるじゃない。」という声もあります。本当に今のままでそれができるのか？ できるのだったら、なぜ既にできていないのか？ そのあたりについては、次号で考えていきたいと思います。

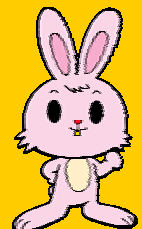
HIP HOP！

領家スタジオで小学校4年生以上を対象としたHIP HOP教室が始まります！インストラクターは、高校生も指導してきた本格派！

7月16日と23日(木)は無料体験日です。

時間は、17時半～18時20分。

参加希望の方は、あらかじめ事務局までご連絡ください。



2009年度も、浦和スポーツクラブでは、総合型地域スポーツクラブ活動助成を受けて活動しています。